

戸塚共立第2病院 内視鏡室

地域医療の中核を担う きめ細かい医療サービスを実践

戸塚共立第2病院は昭和37年の開設以来、地域のニーズに合った医療の提供を目指した地域密着型病院として発展してきました。平成13年にはICUを併設した高度救急医療を提供する急性期病院として新しく生まれ変わり、全国的にも不足している小児科救急の受け入れも積極的に行っています。また、MSW（医療福祉科）を設けて患者様のさまざまな相談に応じるなど、大病院との差別化を図った迅速できめ細やかな対応が特長です。

さらに、地域の病院・診療所との連携を強化するため、新規オープン以来地域医療連携室を併設し、翌年には厚生労働省より開放型病院の承認を得ています。これにより、主治医とともに共同診療を行うことができ、より患者様本位の医療の提供が可能となりました。こうした努力が地域住民の確固たる信頼を築き、現在では1日の外来患者数が500人を超えているそうです。

内視鏡室でも、患者さんに安全で苦痛の少ない検査を提供することを開設以来のコンセプトとしており、ほとんどの内視鏡検査を意識下鎮静法（コンシャスセデーション）で施行しています。実際に評判を聞いて検査を希望される患者様も増えており、内視鏡検査数は年々増加傾向にあります。また、急性期病院としての役割を果たすために救急の受け入れを積極的に行っており、消化管出血例に対し、止血術としてAPC（アルゴンプラズマ凝固法）やEVL（内視鏡的食道静脈瘤結紮術）などで迅速に対応しています。その他にも総胆管結石症例等に対する治療ERCPや、早期胃癌に対するESDなどの高度な内視鏡治療も積極的に取り入れ、対応できるような体制をとっています。院長で外科医の福島元彦先生は、「当院のような100床未満の一般病院で、高度な技術や先端機器を導入してあらゆる症例に対応することは、日本の医療の質を確保し、地域医療に貢献する上で非常に大切なことだと思います。」とお話されました。



神奈川県横浜市戸塚区吉田町579-1
理事長：横川 秀男 院長：福島 元彦 病床数：97床
年間内視鏡検査数（平成17年度）：2,600件（うち、上部消化管1700件、下部消化管700件、ERCP 200件）
スタッフ：医師8名、看護師4名（うち内視鏡技師1名）
スコープ本数：5本（うち上部用2本、下部用2本、十二指腸用1本）

内視鏡室では感染管理にも力を入れており、検査数の増加に伴いスコープ本数を増やしました。検査の安全性を最も重視し、ガイドラインを遵守したスコープの症例間消毒を徹底しています。誰が洗浄を行っても一定の品質が保てるよう、看護師が中心となってスコープの洗浄工程をマニュアル化し、作業の質の均一化を図っています。また、生検鉗子などの処置具は可能な限りディスプレイ製品を導入し、患者さんだけでなくスタッフの安全性も確保しています。福島先生は、「安全性と高度な技術が要求される内視鏡治療は、現在の地域医療の連携を進めていく上で非常に重要な要素だと考えます。この基本がしっかりできていれば、周辺施設の信頼も得られ、多くの患者様を紹介していただけるようになると思います。そうすれば、検査や手術の件数が増えて技術も向上し、地域の患者様に安全で質の高い医療を提供するという本来の目的を達成できるのではないのでしょうか。」とお話されました。同院は平成18年11月に日本消化器内視鏡学会の指導施設として認定されており、今後は地域全体の医療水準向上のために、研修施設としての役割を担っていきたいと、さらなる展望をお話いただきました。



内視鏡室のみなさん（一番左が福島先生）